

シニアライフプロジェクト

第1回

「自分らしく生きる」高齢者をご紹介！

これから年齢を重ねていく区民の皆さんに、高齢になったときの生活をイメージしていただくと幸いです。誰もが自分らしく生活を送ることができる環境づくりを目指した、南区南部いきいき支援センターの取り組みです。



みなみシニア吹奏楽団

南文化小劇場で活動する「みなみシニア吹奏楽団」は、30代から80代まで、平均年齢が65歳のメンバーで活動する吹奏楽団です。2015年にスタートした時は5名だった団員も、現在は60名近くまで増え、水曜日の午前中に集まって練習しています。

メンバーは南区民だけではなく、名古屋市外からも集まっているのですが、南区にお住まいの団員の方と、団長の花井さんにお話を伺いました。

65歳で退職後、楽しいことをやりたいと思って入団されたという花井さん。現在はみなみシニア吹奏楽団だけでなく、各地のバンドに所属しトロンボーンを吹いています。音楽を通じて地域ボランティアがしたかったとのこと。

楽器の演奏だけではなく、演奏会を企画して演出や照明を考えるなど本番に向けて準備していく過程や、仲間たちとのやり取りが楽しいと笑顔で語ってくださいました。

これからシルバー世代となっていく人たちに向けて「嬉しいことは続きますよ。現役のうちに退職後やりたいことを考えておくといいですね。」とアドバイスしてくださいました。



指揮者の指導で、練習に熱が入ります。



団長の花井憲司さんは刈谷市在住。



練習会場の南文化小劇場でインタビューさせていただきました！

「健康と好奇心が大切。年齢を重ねたことで大胆になれることもある。」と語ってくださったのは竹本さん（68歳）。ユーフォニウムを担当していますが、以前勤務していた会社でもジャズバンドに所属し、トランペットなど他の金管楽器を吹いていたそうです。

チューバという大きな楽器から渋い低音を響かせるのは小田義美さん（69歳）。JR東海音楽隊の経験があり、春日井市でバンド活動をしていて練習場所を探していたところ、みなみシニア吹奏楽団に誘われたそうです。長年打ち込んできた音楽を、今も楽しんでいます。

若いころからの想いを実現させた方もいました。クラリネットを吹く江島さん（75歳）は、若いころに音大を目指したかったものの反対され、50年以上音楽への想いを秘めていたそう。「何にでも興味を持って、新しいことにもポジティブにチャレンジすれば成長できる。」と語ります。フルート担当の坂野義彦さん（80歳）は、大学生の頃に吹いていたフルートを、退職後50年ぶりに再開した元会社マンです。



竹本さんと江島さん



小田さんと坂野さん



前島さんと中川さん

若いころから楽器をやっていた方ばかりではありません。

中川さんは長年保育士として働いてきて、第二の人生に生きがいを持たらいいなと感じていたところ、フルートを吹く上司の姿を見て「やってみたい」と思われたそう。40歳から個人レッスンに通い、すでに10年以上。「自分も元気にしたい」「地域も元気にしたい」「南区を音楽の街にしたい」という言葉に共感し、活動に参加されています。

前島さんは60歳から楽器を始めたとのこと。個人レッスンにも通い、年に一度の大きな発表会に向けて練習することが、大きなモチベーションになっているといいます。「何でもいいから挑戦してみて。外に出かけることが大事。新たな発見があるし、人に出会うことがいい。自分も成長できます。」と前向きです。

取材させていただき
ありがとうございました！

年齢を重ねると、新しいことにチャレンジしたり、初めての場所に飛び込むことは勇気がいりますが、その一歩を踏み出して、生き活きと活動されている皆様の笑顔と、温かい音楽に触れさせていただきました。